

2024 年度

自己点検・評価報告書

2025 年 5 月 30 日

にんじんランゲージスクール





## 1 自己点検・評価の目的

告示基準に則り、適正に日本語学校の運営がなされていることを確認し、その運営状況を適正かつ客観的に把握することにより教育の質向上を目指すことを目的とする。

## 2 理念・教育目標

### 2.1 理念・ミッション

「学生本位」

### 2.2 教育目標

自らの能力や才能を磨き、最大限に発揮できるようにすることで、社会に貢献する。

### 2.3 育成する人材像

なりたい自分になるために、己を知り、計画性を持って行動できる人物を育成する。

## 4 評価

自己評価基準 [A：対応できている B：一部対応できている C：対応できていない]

1 入学者の募集			
点検・評価項目		評価	根拠
1.1	学校情報の開示を入学志願者の理解できる言語で行うよう努めている。	A	ホームページ、パンフレット
1.2	海外の募集代理人の行う募集活動が適切に行われていることを把握している。	—	直接応募のため該当なし
現状	職員による現地での広報活動によるため、募集代理人を介しての募集活動は行っていない。単一の国籍に偏った学生募集が行われている。		
改善策	中長期的には、多国籍化を視野に入れた広報活動を行い、教育理念に資する日本語教育の場を提供していく。そのために、短期目標として安定した定員の確保と、校舎(施設・設備)の充実を図っていく。		
2 入学者の選考			
点検・評価項目		評価	根拠
2.1	入学者の選考にあたり、学習能力、勉強意欲、経費支弁能力、日本語能力等について根拠資料等で確認している。	A	願書、提出資料、学生面談、保護者面談
2.2	入学者の選考は、学校関係者が行っている。	A	直接応募者への面談
現状	定員が少なく、3クラスで運営しているが、学習目的、日本語能力に差がある。		
改善策	入学選考時に、可能な限り入学後のクラス運営を意識した選考を行い、学習目的、日本語能力の均質化を図る。		
3 納付金			
点検・評価項目		評価	根拠
3.1	入学の選考及び入学後に必要な費用等の金額、納付時期、納付方法を志願者及び経費支弁者が理解できる言語で周知徹底している。	A	ホームページ、募集要項
3.2	関係諸法令に基づいた学費返還に関する規程を定め公開している。	B	学費返還規程公開が不十分
現状	学習者及び、経費支弁者に分かる言語での資料の提示、説明を徹底している。学費返還規程はあるが、幅広く公開できていない。		

改善策	学費返還規程は、学校案内・ホームページへ明記し、誰もが確認できるようにしておく。		
4 学生支援			
	点検・評価項目	評価	根拠
4.1	日本社会を理解し、適応するための取り組みを行っている。	A	東京都、学校所在地管轄の警察署による校内での講習会
4.2	進路指導を適切に行っている。	A	オリエンテーション、学生個人面談、オープンキャンパスへの参加
4.3	危機管理体制についての対応を定めている。	A	危機管理マニュアル、緊急連絡網、業務分掌
4.4	入管法上の留意点について学生への伝達、指導を定期的に行っている。	A	オリエンテーション、グループメッセージ、学生生活のしおり
4.5	不法残留、資格外活動違反、犯罪関与者を発生させないための取り組みを継続的に行っている。	A	オリエンテーション、警察による講習会、在留カードの確認、出席管理、個人面談等
現状	グループメッセージにより、必要な支援を必要なタイミングで行うことができる体制を整えている。		
改善策	引き続きアンケート等で要望を聞き取り、改善点があれば対応していく。		
5 教員			
	点検・評価項目	評価	根拠
5.1	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容を明確に定めている。	B	業務分掌、業務要項周知が不十分
5.2	教職員の教育力及び支援力強化のための取り組みを行っている。(学内、学外研修の案内及び参加促進)	B	教員会議、振り返りアンケート、授業日報、OJT 外部参加への補助など検討の余地あり
5.3	教員評価を適切に行っている。	A	学生アンケート、日報、振り返りアンケート、面談
現状	小規模の組織のため、何かあればすぐに対応できる体制となっている。全体で集まって何かを実施するというよりはOJTなどで個別の要望に対応している。		
改善策	組織の規模に合ったきめ細かな対応の他、外部の研修等にも積極的に参加できるよう支援を行っていく。		
6 教育活動			
	点検・評価項目	評価	根拠
6.1	理念・教育目標に合致したコース設定とカリキュラムの体系的な編成がなされている。	B	進学コース、一般コースの設置だが、入学者の大半が大学院志望より現状にあうカリキュラムの編成を検討する
6.2	学習者の日本語能力を確認し適切なクラス編成を行っている。	A	プレイスメントテスト、会話試験選考時の日本語力の均質化が課題
6.3	教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置を行っている。	A	様式 8-2(法務省告示)、時間割
6.4	授業内容の記録を行い、実施した授業を正確に把	A	授業日報、授業日誌、シラバス、

	握している。		ハンドアウトの管理
6.5	理解度、到達度の測定と評価を実施期間中に適切に行い、その結果を的確に学生に伝えている。	A	授業日誌、学生面談、定期試験、試験結果通知書、振り返りアンケート
6.6	授業評価を含む教育活動の評価を定期的に行っている。	B	年度末に実施する教員、学生による振り返りアンケート 頻度、アンケート項目などの分析、改善に向けた取り組みの強化
現状	休校前のカリキュラムの内容と、休校解除後に入学してくる学生との学習目的が変わってきており、学生の希望に合わせた対応を行っている。		
改善策	より現状に合った教育課程への変更も視野に入れ、学生の希望に合うようカリキュラムを編成し直すことを検討していく。授業評価については、教員、学生ともに内省型の評価を行い、常に課題を発見し改善していくことを意識していく。		
<b>7 教育施設</b>			
	点検・評価項目	評価	根拠
7.1	教室内の照明、換気、遮音などの環境が整っている。	A	告示基準に適合している。
7.2	授業時間外に自習できる部屋の確保に努めている。	B	図書コーナー、教室(放課後)、休憩スペース 定員を考えると午前中に自習できる場所が限られている
7.3	法令上必要な設備等を備えている。	A	告示基準に適合している。
現状	校舎の施設・設備が必要最低限整っている状態。		
改善策	学生数に応じて、少しずつ充実させていけるよう努力する。		
<b>8 安全・危機管理</b>			
	点検・評価項目	評価	根拠
8.1	対象となる学生全員が国民健康保険に加入している。	A	国民健康保険証
8.2	感染症発生時の措置を定めている。	A	危機管理マニュアル、学生生活のしおり
8.3	気象警報発令時の措置、災害発生時の避難方法を定め、教職員及び学生に周知している。	A	業務要項、学生生活のしおり、危機管理マニュアル、グループメッセージ
現状	学生の在留について、適正に管理・サポートすることを意識している。		
改善策	教職員、学生ともに迅速に対応できるよう、定期的な訓練、確認を行っている。		
<b>9 法令の遵守等</b>			
	点検・評価項目	評価	根拠
9.1	法令順守に関する担当者を定めている。	A	業務分掌
9.2	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取り組みを行っている。	B	外部研修への参加 テーマを決めて、体系的に意識が高まるよう工夫する
9.3	個人情報保護のための対策をとっている。	B	非常勤教員、学生共に、個人情報

			の取り扱いについての説明と、希望の聴取を書面で行っている。ネット環境、書類保管棚など、対策が十分とは言えない
9.4	地方出入国在留管理局、その他関係官公庁等への届出、報告を遅滞なく行っている。	A	入管への定期報告、自治体への諸手続き、問い合わせ対応等
現状	届出事項などは遵守している。一方で、学生の個人情報の管理方法、個人情報保護のための対策など、十分とは言えない。		
改善策	コンプライアンスに対する意識を高めるため、年間行事の中に研修を組み込んでいくなど、教職員全体の意識を高めていく。またセキュリティー強化に向けて必要なものについては、早急に整えていく。		